北海道港湾空港建設協会

会報

平成29年1月



No.90

「写真提供: 稚内開発建設部」



*h|H*0'

一目次一

新春のご挨拶 (北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹)	1
Report 港関係団体と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催 日本港湾空港建設協会連合会と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催 …	2 5
港関係団体連絡会と北海道開発局担当者が意見交換会を開催・・・・	8
たちには一下を言うというというに当られると、	Ü
受賞	
北海道水産林務部 平成28年度水産土木・森林土木工事等優秀業者表彰…	9
各種記事	
我が社の安全衛生管理	
(㈱ササキ 専務取締役 山本 忠)	10
工事現場紹介「稚内港北防波堤護岸改良その他工事」	
(藤建設㈱) 土木副部長 山下 義明)	12
私の趣味「趣味遍歴」 (堀松建設工業㈱ 中村 信之)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
Topics	
イベント	
「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」の開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
独占禁止法・コンプライアンス・港湾行政に関する講習会開催―技術者の法令順守学ぶ― ・・・	17
小樽港ケーソン製作電気クレーン80余年の歴史に幕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
小樽港フィールド・ラーニング(O.F.L)の開催 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	19
新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業の着工記念式	20
「釧路港みなと見学会」の開催	21
広域防災フロートの派遣訓練が実施されました	22
第6回苫小牧漁港ホッキまつりが開催されました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
大型客船寄港	
小樽港に今年度最後の豪華客船コスタ・アトランチカ初寄港	24
釧路港に今年度最後の豪華旅客船フォーレンダム寄港	25
Information	
事務局だより	25
事物内により こうしゅう	4)



鴛泊港は利尻島の北部に位置する地方港湾であり、利尻・礼文・サロベツ国立公園である利尻島への離島フェリー航路の玄関口として、離島観光への対応や離島住民の生活を守る重要な役割を担っています。

鴛泊港鬼脇地区は、利尻島の南部に位置 しており、冬季におけるフェリー航路の代 替え港として、また、島内の公共施設整備 の必需品である砂利・砂等の荷役拠点とし ての役割も果たしています。

新春のご挨拶



北海道港湾空港建設協会 会長 宮 崎 英 樹

平成29年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

国土交通省は、平成29年度港湾関係予算の要求にあたり、「経済財政運営と改革の基本方針2016」、「日本再興戦略2016」等を踏まえ、「被災地の復旧・復興」「生産性向上による成長力の強化」「国民の安全・安心の確保」「地域の活性化と豊かな暮らしの実現」の4分野を強力に推進し、大規模自然災害から国民の生命と財産を守るとともに、生産性向上を導く社会資本のストック効果を重視した社会資本整備を進めることにより、我が国の成長を支えるとしています。

北海道は、農業、酪農、畜産産出額が全国一位、漁業生産額も全国一位となっていることからわが国の食料供給基地に位置づけされており、北海道の港湾は、農水産品物流の拠点として、安定した食料の供給や「日本再興戦略2016」に掲げる「攻めの農林水産業の展開と輸出力の強化」に貢献する極めて重要な社会資本になっております。

また、近年、北海道の良質の自然環境、農水産物を求めて外航クルーズ船による外国人の来道者が急増しており、上記戦略に掲げる「観光立国の実現」に向けて北海道の港湾が観光の玄関口としての機能など期待されております。さらには、地域経済を支える地方の港湾の老朽化対策の推進も求められております。

このような状況から、港湾の整備促進が活力であり魅力のある地域となるために極めて重要であります。

また、訪日外国人旅行者の受け入れ機能の強化、国内・ 国際航空ネットワークの強化を図るため、空港施設の更 新・改良を推進することも必要だと考えております。

港湾空港関係建設業界は、今後の事業の見通しが不透明なことや建設業としての将来の担い手の確保に不安を抱えておりますが、社会資本の整備、維持に携わり、災害に速やかに対応することが期待されている建設業の役割は益々重要なものとなっております。

本年も、会員の皆様のご理解とご協力をいただきなが ら諸課題に取り組んでまいる所存であります。

会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様方にとりまして、希望に満ちた発展の年になりますことを心より祈念いたします。



港関係団体と当協会が 北海道開発局と意見交換会を開催

平成28年12月9日(金)ホテルポールスター札幌において港関係団体と当協会の共催で「平成28年度港湾・空港・漁港事業に係わる意見交換会」を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。







港関係団体 北海道開発局

出席者

3	》北海道開発局				
	港湾空港部				
	港湾空港部長	笹	島	隆	彦
	港湾計画課長	中	島		靖
	港湾計画課港湾企画官	早	Ш	哲	也
	港湾計画課長補佐	古	屋	武	志
	港湾建設課長	伊	藤		晃
	港湾建設課港湾保安保全推進官	上	田	裕	章
	港湾建設課長補佐	矢	野	隆	博
	港湾行政課長	逸	見	将	吾
	港湾行政課長補佐	飯	田		誠
	空港課長	佐	々:	木	純
	空港課長補佐	平	尾	利	文
	農業水産部				
	水産課長	本	田	耕	_
	水産課水産企画官	伊	藤	千	尋
	水産課長補佐	星		道	太
	港湾建設課建設第2係長	菊	地	隆	_

◎港関係7団体 ※印:要望事項の説明				
〇北海道港湾空港建設協会				
会長	宮	﨑	英	樹*
技術委員会 副委員長	宮	本	義	憲
〇(一社)北海道建設業協会				
港湾•漁港部会長	藤	田	幸	洋*
副部会長	百	瀬		治
〇(一社)全日本漁港建設協会				
北海道支部長	西	村	幸	浩*
副支部長	堀	松	_	郎
〇(一社)日本埋立浚渫協会				
北海道支部長	白	Ш	隆	司*
技術委員長	石	脇	雅	生
〇(一社)日本海上起重技術協会				
北海道支部長	宮	﨑	英	樹*
〇全国浚渫業協会				
北海道支部長	藤	田	幸	洋*
〇(一社)日本潜水協会				
札幌支部長	堀	松	宏	朗*
〇港関係団体連絡会				
会長	杉	本	義	昭

北海道港湾空港建設協会 要望事項

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導 ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術 を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上 と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄 与することを目的として事業を行ってきたところです。 北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に 依存するなど、港湾は極めて重要な社会資本となってお ります。特に北海道は農業、酪農、畜産産出額が全国一 位、漁業生産額も全国一位と我が国の食料供給基地と なっており、北海道の港湾が農水産品物流の拠点として 貢献しております。また、近年、訪日外国人の来道者の 増加に伴うクルーズ船観光の玄関口としての機能も期待 されており、港湾の着実な整備が活力であり、魅力のあ る地域となるために極めて重要であります。会員企業は、 建設投資が急激に減少した状況の中で、港湾空港関係工 事の施工能力を維持するため、一層の合理化などの経営 努力を重ね、各地域の経済活性化や国土強靭化への取り 組みなどを通じて、港湾空港建設業としての社会的重要 性を認識し期待される役割を果たしていく所存でありま す。会員各企業の現状を踏まえ、下記の懸案事項を取り まとめましたので格別のご理解とご高配を賜りますよう お願い申し上げます。

要望事項

1 平成29年度港湾空港関係予算の確保について

北海道においては、国内外との物流のほとんどを海上輸送に依存し、港湾は、極めて重要な社会資本となっております。食料供給力及び農林水産業の輸出力の強化、クルーズ船観光の玄関口としての機能の強化、国土強靭化に向けての取り組みの強化、離島交通の安定的確保を図るため、港湾施設の整備を推進すること、港湾・漁場の整備を推進することが必要と考えております。また、訪日外国人旅行者の受け入れ機能の強化、国内外の航空

ネットワークの強化を図るため、空港施設の更新・改良を推進することが必要と考えております。これらの事業を適切に安定的に推進していくためには、会員各企業の人員や機材の確保が必要不可欠であります。平成29年度の港湾空港関係予算につきまして、安定的かつ持続的な事業量の確保をお願いいたします。また、冬期間における事業量の確保及び工事の平準化のための平成28年度港湾空港関係補正予算(ゼロ国債予算を含む)の確保をお願いいたします。

2 海域区域の供用係数の適用について

海上工事における供用係数及びその適用期間は海域区 分別に港ごとに港湾土木請負工事積算基準に定められて います。適用期間と実際の施工期間の不整合や供用係数 と実態の海上条件との乖離が生じており、適用期間及び 供用係数の適切な対応をお願いいたします。

3 老朽化対策工事の諸経費率について

港湾・漁港施設の老朽化対策工事は、新規建設工事に 対して施工量が比較的少ないうえに工種ごとの工程が多 岐にわたっており、さらに工事設計図書と経年に伴う施 設実態との相違が生じており、それらに対応する仮設、 雑材料、手間が当初設計を超えて必要になりますので諸 経費率の見直しをお願いいたします。

4 消波ブロック製作の雑材料について

消波ブロック製作に要する養生シート、ワイヤーロープ、足場等の費用については、労務費に一定率を乗じた金額で計上されていますが、特に大型ブロック製作の場合、これらの費用が実態と大きく乖離しておりますので見直しをお願いいたします。



以下、他協会の要望事項 -

拙北海道建設業協会 港湾·漁港部会

- 1. 平成29年度当初予算における公共事業費の増額確保 について
- 2. ゼロ国債の措置について
- 3. 防災・減災に不可欠な基盤施設の整備について
- 4. 地元建設企業への受注機会の確保について

(社)全日本漁港建設協会 北海道支部

- 1. 平成29年度水産基盤整備事業 (漁港漁場整備)予算等の確保について
- 2. 安定的で持続的な予算の確保について
- 3. 防災・減災対策の更なる推進について
- 4. 早期発注及びゆとりある工期の設定について

紐日本埋立浚渫協会 北海道支部

- 1. 港湾関係公共事業費の確保について
- 2. 技術提案評価型 (S型) 工事の確保について
- 3. 技術提案評価型 (S型) 企業評価項目について
- 4. 配置予定技術者の工事成績適用について

紐日本海上起重技術協会 北海道支部

- 1. 平成29年度港湾関係予算の確保について
- 2. 地元企業への工事量の確保について
- 3. 登録海上起重基幹技能者の評価について
- 4. 作業船の保有及び代替建造に対する支援について
- 5. 実態に即した起重機船の回航・えい航費について

全国浚渫業協会 北海道支部

- 1. グラブ浚渫工事量の確保・増大について
- 2. 総合評価における「国土交通大臣顕彰を受けた建設技能者の評価」について
- 3. 作業船の代替建造に係る買換特例の延長について

紐日本潜水協会 札幌支部

- 1. 港湾潜水作業にかかる事業量の確保について
- 2. 港湾潜水技士資格の活用について
- 3.「潜水工事」を建設業法に定める専門工事への追加認定について



日本港湾空港建設協会連合会と当協会が 北海道開発局と意見交換会を開催

平成28年12月8日(木)ホテルポールスター札幌において日本港湾空港建設協会連合会(日港連)と当協会の共催で国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。







北海道開発局

日港連

宮﨑会長

出席者

技術委員長

◎北海道開発局		技術ワーキング委員長	小 松 英 則
港湾空港部		技術ワーキング委員会委員	成 田 満
港湾空港部長	笹島隆彦	技術ワーキング委員会委員	篠原邦彦
港湾計画課長	中 島 靖		
港湾計画課港湾企画官	早川哲也	◎北海道港湾空港建設協会	
港湾計画課長補佐	古屋武志	会長	宮崎英樹
港湾建設課長	伊 藤 晃	副会長(技術委員長)	藤田幸洋
港湾建設課港湾保安保全推進官	上田裕章	副会長	西 村 幸 浩
港湾建設課長補佐	矢 野 隆 博	技術委員会副委員長	宮本義憲
港湾行政課長	逸 見 将 吾	委員(部会長)	中村弘之
港湾行政課長補佐	飯 田 誠		(日港連技術委員)
空港課長	佐々木純	委員(副部会長)	石 脇 雅 生
空港課長補佐	平尾利文	委員	杉本義昭
農業水産部			(日港連技術委員)
水産課長	本田耕一	委員	手 塚 定 雄
水産課水産企画官	伊藤千尋	委員	岩城儀人
水産課長補佐	星 道太	委員	竹 中 正
港湾建設課建設第2係長	菊地隆一	委員	柴田政雄
		委員	岡 崎 光 信
◎日本港湾空港建設協会連合会		委員	高柳省一
専務理事	幸田勇二	委員	市来隆

大滝雅宣



要望事項

日頃より日港連の活動に深いご理解と温かいご指導を 賜り、厚く御礼申し上げます。

当連合会は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位の向上」を目的に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して1984年(昭和59年)に設立され、以来33年を数えます。

この間、日港連の会員各社は一貫して我が国の経済、 産業を支える港湾・空港インフラの整備に携わり、建設 業の立場から我が国の発展に寄与してまいりました。

さて、我が国経済は緩やかな回復基調が続いておりますが、デフレからの脱却を確実なものとするため、「1億総活躍社会」の実現を目指してアベノミクス・第2ステージの取り組みが進められております。去る9月には成長戦略の新たな司令塔となる「未来投資会議」が設置され、建設現場の生産性を2025年までに20%向上させるなどの具体的な方針が示されました。GDP600兆円の実現を目指して、アベノミクス効果を全国津々浦々に波及させていくためには、経済成長の基盤となる社会資本の拡充が不可欠です。

全国に所在する私どもの会員企業は、これまで地域の 社会資本整備を担ってきており、これからも時代のニーズに対応しつつ地域社会の発展に貢献したいと考えております。しかしながら港湾空港建設業界は、今後の事業 見通しが必ずしも明確でなく、建設業として将来の存続に不安を抱えております。

このような現状を踏まえ、私どもが抱えております当 面の懸案事項につきまして、下記のとおり要望いたしま すので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 港湾関係社会資本の安定的・持続的な 整備推進

人口減少社会を迎える中で我が国の経済を再生するためには、国際物流や急増するクルーズ需要に対応した港湾機能の強化が必要です。また、切迫性が指摘されている南海トラフ・首都直下地震等に対する事前防災・減災対策の推進、更には施設の老朽化対策など安全・安心の確保も喫緊の課題となっております。

また、これらの事業を安定的に推進していくためには、 災害対応などの地域維持を担う建設企業が将来にわたっ てその役割を果たしていけるよう、地域ごとに必要最低 限の事業量が確保されることが望まれます。

つきましては、地域バランスに配慮しつつ新規プロジェクトの発掘を積極的に行うとともに、港湾関係社会資本の整備推進に必要な予算の確保についてよろしくお願い申し上げます。

2. 港湾空港建設業の健全な発展が可能となる 公共調達制度の改善

公共工事品確法の改正を受け、公共工事発注者による 建設業の将来の担い手の確保に向けた取り組みが始まっ ています。こうした取り組みにより一定の改善も進んで きたところですが、現状では未だに課題も残されており ます。

つきましては、港湾空港建設業の健全な発展が可能と なるよう、以下の項目についてご検討いただきますよう お願い申し上げます。

- (1) 建設現場における生産性の向上
 - ①i-Construction推進のための措置 施策推進に当たって必要となる設備等の明確化 と必要経費の積算計上。
 - ②工事書類の削減

複数ある工程関係書類の集約化や提出頻度、量の簡素化。電子検査の一層の推進。紙と電子による二重納品の防止を徹底すること。

③工事請負契約の電子化

工事請負契約を電子化することにより、契約事 務手続きの効率化、印紙税負担の削減を図ること。

(2) 入札・契約制度の改善

- ①小規模な消波ブロック製作工事の積算 転置用クレーンの拘束費に積算と実態で大きな 乖離が生じている。見積り採用を始めた整備局も あるが、全国的な課題であり速やかな積算基準の 改正が望まれる。
- ②低入札価格調査基準の設定範囲の上限撤廃 調査基準の設定範囲(7/10~9/10)の上限 値9/10の撤廃。
- ③総合評価落札方式の改善

施工能力評価型:施工計画を可否判定ではなく、 基本的に点数評価としてはどうか。

技術提案評価型:技術的な検討要素の低い工種 は施工能力評価へ移行してはどうか。

(3) 建設業の担い手確保

①発注時期の適正化

工事発注時期の平準化、また、最適な施工時期 に現地施工が可能となるよう、必要に応じて平準 化、国債等の積極的な活用により発注時期の適正 化を図ること。

- ②海上工事における荒天リスク精算型工事の拡大 荒天等のリスクを回避し、休日の確保が可能な ため、特に海象条件の悪い海上工事での適用を拡 大すること。
- ③作業船の買換に係る税制特例制度の延長 作業船買換時の譲渡益の圧縮記帳制度を延長す ること。
- (4) 公共調達制度の港湾管理者等への指導

改正品確法の運用指針など公共調達制度について 港湾管理者等への指導を徹底。





港関係団体連絡会と 北海道開発局担当者が 意見交換会を開催

RHYISHIU

平成28年11月25日(金)小田ビル会議室において港関係団体連絡会(杉本義昭会長)は、北海道開発局と平成28年度 港湾・空港・漁港の工事に関する意見交換会を開催した。

北海道開発局から港湾空港部伊藤晃港湾建設課長、佐々木純空港課長、農業水産部本田耕一水産課長など7名出席、港関係団体連絡会から杉本義昭会長、山田悦郎副会長、石脇雅生副会長など港湾関係7団体から14名が出席して「入札・契約に関する要望」「設計・施工に関する要望」について意見交換を行った。主な要望内容は以下のとおり。



北海道開発局



港関係団体連絡会

主な要望内容

入札・契約に関する要望

- 1. 老朽化対策工事の工種区分・間接経費の見直しについて
- 2. 見積活用方式について
- 3. 技術提案の評価について

設計・施工に関する要望

- 1. 「海域区域の供用係数」の見直しについて
- 2. 作業船及び陸上クレーンの規格・単価について
- 3. 基礎捨石工(材料割増)について
- 4. 水中コンクリート打設費について
- 5. ブロック製作・据付について
- 6. 船舶の回航費及び退避費用について
- 7. 受注者活用について

北海道水産林務部 平成28年度 水産土木·森林土木工事等 優秀業者表彰

北海道水産林務部は、平成28年度工事等優秀業者感謝状の贈呈式を12月20日ホテル札幌ガーデンパレスで挙行した。 同部所管の平成27年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に尽力した工事部門23社、 委託部門3社に知事感謝状が手渡された。表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会員の㈱吉本組、堀松建 設工業㈱、安田建設㈱、㈱西村組、萩原建設工業㈱、釧石工業㈱、真壁建設㈱の7社が受賞した。

森林土木部門では、当協会員の㈱中田組、葵建設㈱の2社が受賞した。

[水産土木部門受賞]

(株)吉本組(岩内町) 代表取締役社長 吉本 貴昭 堀松建設工業(株)(留萌市) 代表取締役社長 堀松 一郎 安田建設(株) (枝幸町) 取 締 役 社 長 安田 最次 (株)西村組(湧別町) 代表 取 締 役 西村 幸浩 萩原建設工業(株)(帯広市) 代表取締役社長 萩原 一利 釧石工業(株)(釧路市) 代表取締役社長 西村 智久 真壁建設(株)(根室市) 代表 取 締 役 山下 洋司

[森林土木部門受賞]

(株)中田組(稚内市) 代表取締役社長 中田 伸也 葵建設(株) (釧路市) 代表取締役社長 山中 博



我が社の安全衛生管理

株式会社 ササキ 専務取締役 山本 思

40

1. はじめに



当社は昭和28年7月に猿払村小石で佐々木組として 創業を開始し、昭和37年1月に猿払産業へ名称を改め、 昭和52年3月に現在の株式会社ササキへ社名を変更し 現在に至ります。官公庁を主体に道路・港湾・河川・橋 梁・農業の土木工事など、地域に密着した企業として実 績を重ねております。新たなる技術革新の中、社会環境 の複雑化と共に多様化する現代社会のニーズに応じ、築 き上げてきた歴史と技術を生かしながら、品質向上を図 り、社会資本整備の構築に貢献できる企業を目指してお ります。

2. 安全衛生方針



当社は安全基本方針を「何事にも基本を守る事と、 作業手順の見直し等を行い、各作業所工種にあった手順 書を作成し確実に守る事とヒューマンエラーによる事故 防止に努めます。」と定め、当社で働くすべての従業員 が安全第一を常に心がけています。

【安全スローガン】

「不安全見たら その場で 即注意

掛ける言葉に思いやり願う気持ちは無災害」 「安全は 人に頼らず 自分で行動

ルールを守り 安全作業」



3. 安全衛生管理計画



安全基本方針を基に、安全スローガンや安全衛生管理 体制など定めた「安全衛生管理計画」を策定します。安 全衛生管理計画に基づき、各作業所では施工計画におい て安全目標を定め安全衛生の向上を図っています。

4 安全衛生管理活動



①安全衛生委員会 • 安全大会

月1回グループ会社全従業員が猿払村本店に集まり 安全大会を開催します。安全大会では社長の訓示をはじ め安全管理者による安全講話により労務者の安全意識向 上を図ります。

安全大会後、安全・衛生委員会において現場の特徴を 踏まえた危険個所の抽出や災害防止活動に向けた取り組 みを行っています。



会社安全大会

②社内安全パトロール・特別パトロール

毎月1回、事業主をはじめ安全担当者による社内安全 パトロールを実施しています。

パトロールでは各現場の作業環境の確認、作業方法や 安全書類の点検を実施し、パトロール点検表による指導・ 改善で災害防止対策を図っています。

全国安全週間、全国労働衛生週間、建設業繁忙期安全 期間、年末年始無災害運動時には安全管理者を中心に特 別パトロールを実施して安全面、衛生面に対し現場支援 を行っています。

また、当社では不定期に女性事務員による現場パト ロールを実施し、女性目線による視点で社内安全パト ロールにより見逃している点が無いかを再確認します。



社内安全パトロール

③交通安全

啓蒙活動として全社員でセーフティーラリー運動を実施し無事故・無違反の達成に努力しています。春の新学期時期は地域住民の父母の方々と一緒に「旗の波運動」に参加。また小中学生の通学路では道路清掃を実施し交通事故防止活動など地域とのコミュニケーションを図っています。





清掃活動

旗の波運動

5. 作業所安全衛生活動

各作業所ではリスクアセスメントに基づいた危険予知活動の100%実施、各作業所長による安全訓練を行っています。作業所毎に工事工程から安全衛生計画表を作成し、月例災害防止重点目標に対する対策を設定し安全衛生活動の強化に努めています。ヒヤリハット報告書を作業手順書に活かし作業手順の要領を細分化することで労働災害の撲滅に取り組んでいます。

また、工事現場の周辺環境として、道路では騒音・振動対策、事故災害や渋滞の防止など、漁港では海水の汚濁防止、漁港周辺の自然環境についても常に配慮します。 そして、当社は健康で働くという事が安全に結びつく という考えから、インフルエンザが流行する冬季にむけ インフルエンザ予防接種を実施し健康面にも配慮してい ます。



安全訓練



朝礼 KY活動

6. むすびに



当社は港湾工事や道路工事等幅広い分野で工事を受注していますが、各部門で協力し現在取り組んでいる「リスクアセスメント」の更なる強化を図ります。現場での危険性、有害性のリスクが低減されることで危険性の少ない現場の実現へと向けていきます。そして「地域に貢献できる企業」をめざし、日々邁進していきたいと思っています。

工事現場紹介

稚内港北防波護岸改良 その他工事

藤建設株式会社 土木副部長

山下

義明

1. 工事の概要

稚内港北防波堤ドームは、日本最北端に位置する稚内 市と樺太(現サハリン)の大泊(現コルサコフ)を結ぶ 稚泊連絡船を高波から守るため、昭和6年に着工し昭和 11年に完成した。

全長は427mに及び70本の太い柱に半円形のアーチ状 の屋根を有し、古代のギリシャ神殿を彷彿させる世界に 類例のない歴史的構造物である。

稚内市の観光資源として多くの観光客が訪れ、コン サート会場や展示場、食のイベント会場などとして地域 に親しまれ活用され、平成13年に北海道遺産、平成15年 には土木学会選奨土木遺産に選定されている。

建設から40年経過した昭和50年頃にはコンクリート の表面剥離が顕著となり、利用上危険な状態となったこ とから昭和53年から3年の歳月をかけて全面改修(原形 復旧)が行われ、平成に入ってからは柱部の耐震強化補 強工事がおこなわれた。

全面改修から35年が経過し、コンクリート劣化に伴う 鉄筋の露出など老朽化が顕在化し、利用上の危険が伴う ことから補修工事を行うこととなった。

本工事は平成28年6月に着工し、8月から劣化部分 の除去と断面修復を実施し、12月上旬に終了した。



稚内港北防波堤ドーム

2. 補修方法の概要

①床版部

補修箇所は2.0m×2.0mを1区画の最小単位として劣 化部分の除去方法を「ウォータージェット工法」(以下、 W | 工法) で行い、断面補修材としてポリマーセメント モルタル(靱性モルタル)を吹付けた。

仕上時にモルタルに顔料を混入し美観(未補修部分と の調和) に考慮した。

②胸壁部

事前調査の結果、今回の施工箇所における劣化部分の 除去は必要なく、今後の劣化因子侵入防止のため、 20cmの厚さで既設コンクリートを増厚した。

③柱部

表面に発生しているひび割れから劣化因子の侵入抑制 と美観の改善のため、アラミド繊維シート巻立てによる 繊維補修工とポリマーセメントモルタルの左官工法によ る塗布補修工を試験的に各1箇所行い、経過観察を行う ものである。

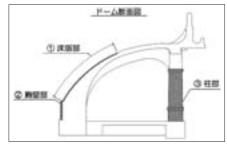


図 1 補修概要図

3. 施工に当たっての検討事項

① 床版上の作業足場は、W J 工法及び断面修復施工時 に安全かつ堅牢で、設置・撤去及び作業中の移動が効率 よくできる構造が必要で、荒天時に撤去する必要が生じ た場合の移動・撤去について考慮する必要があった。

以上から床版のアーチ形状にフィットする分割・組立 式の足場構台を製作し、床版上に設置したレール上で可 動でき、荒天時には折りたためる構造とした。

また、床版上への昇降は北防波堤ドーム先端にビディ 足場を組立て使用した。



写真 2 作業足場通常時



写真 3 作業足場移動時



写真 4 昇降足場

② W J 工法時に発生する排水を、海に流出することなく効率よく回収を行える方法が必要であった。

港外側に樋・ノッチタンクを設置して集水する方法を 考えたが、設置方法や荒天時の管理を考慮してバキュー ム車による吸引で回収することとした。



写真 5 バキューム車吸引



写真6 バキューム車吸引

4. 工事作業状況



写真 7 WJ工法によるはつり作業



写真8 はつりガラ受枠



写真 9 靱性モルタル吹付作業

5. あとがき

北防波堤ドームという歴史ある建造物の維持補修事業の初年度を担当し、着手前は手探り状態であったが、発注者をはじめ協力会社等関係各位の力添えのお陰で工事を無事故で終えることができた。

工事を振り返ると作業足場の細かな改良、作業手順の 見直し等改善すべき事項は多く、この事業に再び関わる ことがあれば今回の経験を生かしていきたい。

『趣味遍歴』

堀松建設工業株式会社 中村 信 之

生来物事に飽きっぽく根を詰めるタイプではあり ませんので趣味と言うほどのものは持ち合わせてい ませんが、その時期なりに少々時間を割き、興味を 持ったものがありますのでそれらを趣味と勝手に理 解し貴重な紙面を拝借し披瀝いたします。

小さい頃から体を動かすことは得意でしたので学 生時代は、講義もそっちのけでスキー三昧でした。 体育会系のスキー部に所属し毎年12月にはニセコ 比羅夫スキー場の民宿に一ヶ月ほどの合宿がありま した。朝6時に起床しランニング、体操、食事の後 午前2時間、午後2時間の練習が一日のスケジュー ルでした。当時はのんびりしたもので、ポールをセッ トレコースを踏み固めながら登り滑るという具合で した。卒業後、公務員となりましたが、最初の職場 が成田の空港建設でした。会社は虎ノ門にあり、現 場である空港との中間の千葉県八千代市に宿舎があ りましたので八千代市スキー連盟に所属しました。 地区の市民大会に参加したところ、インカレ1部に 所属する選手が出場しておりレベルが高いのに驚い た記憶があります。今から40年も前の話でありその 後2年間所属しましたが北海道への異動、所帯を 持ったことなどによりスキーは全くの家族サービス、 余暇のスポーツとなりました。

ふたたび時間に余裕ができたのは、単身赴任とと もにです。通算すると道内3年道外4年の7年間 でした。最近は、若くして自宅を建てられ単身赴任 が長くなる傾向があるようですが、期間が二桁を迎 えずに単身赴任を終了できたことはありがたいこと でした。人は易きにつきやすく、伴侶のいない楽し さにすぐに慣れてしまうからです。宮仕えのころは、 休日とはいえ災害、事故などへの対応がいつも念頭 にあり、今ほどではありませんが携帯電話が鳴ると いつも緊張したものです。ファクシミリが普及し始 めた頃は機器が無いことを言い訳にずいぶん時間を 稼げたことが懐かしい思い出です。

さて、週末の時間があるときに手軽にできるのが 町の散策です。とりわけ東京は町並み探索には最高 の場所です。古くから武家町人それぞれの文化が根 付いており歴史を感じさせる風情があります。しば しば訪れたのは浅草、根岸、上野、日暮里、門前仲 町などの下町方面です。何となく落ち着くところが あります。JR日暮里駅からほど近い「夕焼けだん だん」(写真1)から始まる商店街は様々な商店が 建ち並びお勧めの場所です。春には、3000本あると いう根津神社のつつじが見事です。夕方まで付近を

ぶらつきおなかが減っ てくると一杯飲みたく なります。鶯谷駅付近に ある豆腐料理専門店の



(写真1) 日暮里 「夕焼けだんだん」 「笹乃雪」は創業300余年

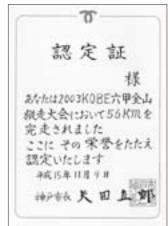
の老舗ですが気楽に立ち寄ることができる雰囲気の お店です。足を棒にして歩き回るのは日頃のストレ ス解消にはうってつけで楽しいものです。東京は桜 の名所が多いのですが、町歩きをしながら、偶然に 良い風景を見つけたときはうれしいものです。門前 仲町駅からほど近い古石場川公園の付近の川沿いの 桜並木は川面に枝が自由奔放に伸び枝垂れ桜のよう であり好きな風景です。古めかしい提灯が飾りつけ られたりしていて何となくうらぶれたわびしい風情 もまた良いものです。門前仲町には有名な居酒屋「魚 三酒場」があります。カウンターに席を見つけ割り 込んで座り待っていても注文を取りに来てくれませ ん。気合いで注文をし、慌ただしく飲んで席を立ち ます。あまり落ち着いた感じはしませんがこれがま たいいのです。

町並み歩きで大きな市場を見つけると端から端ま で歩いてみます。神戸新開地にある東山市場は六甲 の麓の湊川地区にあり規模が大きく肉、野菜、魚な どの生鮮食品から惣菜、漬け物、鰹節などいろいろ のものが売られており本当に興味が尽きません。神 戸は一年あまりの勤務でしたが毎年秋に行われる六 甲全山縦走56kmに挑戦しました。当時は体力には ある程度自信がありましたので、週末の何回かに分 けたトレーニングの後、平成15年11月9日の本番 に臨みました。朝4時半に宿舎を出発し5時に須磨 浦公園のスタート地点に着いた時点ですでに多くの 人々がスタートの順番待ちをしており人気の高さに 驚いたものです。スタートできたのは5時半過ぎで あり上りの階段、尾根の一本道では渋滞しがちであ り抜けるわけにもいかず行列について行くのが体力 的に大変でした。その後はだんだんばらけるのです が辛いのは後半4分の1を残しての下りの連続で す。トレーニングでは下りの部分のみを行いました ので難なく降りることができたのですが、40km以 上を歩いてからの下りは膝に大変負担がかかります。 膝は痛いは、おまけにヘッドランプの電池が切れ電 池交換するにも手元は暗いはで大変な目に遭いなが らもゴールの宝塚公園に何とかたどり着いたのが午 後9時40分でした。全工程16時間の大変長い一日 でした。まだ体力十分の頃の良き思い出です。(写 真2、3)

平成17年の高松勤務を最後に単身赴任は解消になり週末のお楽しみも終了しました。最近は人並みですがゴルフに取り組んでいます。ゴルフ歴は40年近くになりますが、いつも人様に迷惑かけない程度プレーできればよしとする低い目標でしたので上達するはずがありませんでした。ここに来てにわかに



(写真 2) 六甲全山縦走 チェックカード



(写真3)認定証

意識改革を行ったのは、今のまま程度の腕前ではつきあいゴルフもままならないと自覚したからです。公務員を退職後、6年前に自宅に近いゴルフクラブに入会し、クラブ競技会に出場できる程度になろうと目標を定めました。そのためには、まずは60歳までに80代のスコアを出し高齢者に達する前にハンデ18を切るというのが第一目標でしたが、残念ながらこれは達成できませんでした。ですが、昨年運にも恵まれクラブ競技会で初優勝することができました。(写真4)精進すれば良いこともあります。現在は、目標を5年先送りし、地道に体に負担のかからないスイング改造に取り組んでいるところです。健康が許せば、80歳まではゴルフクラブに所属しグランドシニアーとしてプレーを継続できるようにしたいものです。



(写真4) クラブ会報より

ベント

「経済と暮らしを支える港づくり 全国大会」の開催

(公社) 日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市 長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海 岸防災協議会の港湾関係5団体で構成する、「経済と暮 らしを支える港づくり全国大会実行委員会 | は、10月20 日(木)東京平河町の砂防会館別館大ホールで「平成28 年度経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を開催し、 全国各地から約1000名の港湾関係者が参加した。(北海 道港湾空港建設協会関係者は約50名)

はじめに主催者を代表して宗岡正二日本港湾協会会長、 新潟市長篠田昭日本港湾振興団体連合会会長が挨拶を述 べ、主催団体からの出席者紹介、来賓紹介があり、来賓 を代表して石井啓一国土交通大臣が祝辞を述べられまし た。また、衆議院議員望月義夫港湾海岸防災協議会会長 の挨拶がありました。

続いて菊地身智雄国土交通省港湾局長が港湾行政報告

を行い、田村祥三利尻富士町長、立谷秀清相馬市長、本 間源基ひたちなか市長、崎田恭平日南市長の4市町長が 港湾整備・振興について意見を表明した。

続いて夏野元志射水市長が「港湾の整備・振興に関す る要望書」を提案し、満場一致で賛同を得て宗岡日本港 湾協会会長から田中良生国土交通副大臣、大野泰正国土 交通大臣政務官に要望書を手渡しました。

要望項目

東日本大震災・熊本地震からの復興加速

日本経済の成長力強化

国民の安全・安心の確保

地域の活性化と豊かで利便性の高い地域社会の実現



独占禁止法・コンプライアンス・ 港湾行政に関する講習会開催 一技術者の法令順守学ぶ一

日本埋立浚渫協会(清水琢三会長)北海道支部と北海 道港湾空港建設協会(宮崎英樹会長)は11月24日(木)、 ホテルモントレ札幌で28年度 独占禁止法・コンプライ アンス・港湾行政に関する講習会を開いた。参加した80 人が独占禁止法や技術者倫理などについて学んだ。

日本埋立浚渫協会の鈴木勝調査役が、ことし4月に協会企業による羽田空港などでの不良施工、不正問題が発覚したことから「5月に清水琢三会長がコンプライアンスの確保と信頼回復の声明を出した」と報告。協会内にワーキンググループを設置し、会員各社に法令順守の徹底を呼び掛けているとした。

講習会では、公益財団法人公正取引協会の渡辺健一事務局長が、公正取引委員会の独占禁止法と談合問題を題材に講演。近年の独占禁止法の改正や摘発された入札談

合、不正な取引など事例を交えて解説した。

続いて早大理工学院の柴山知也教授が技術者倫理の実践と不祥事の防止を講演し、社会の急速な変化に技術者がどう対応していけばいいのかを解説した。

柴山氏はこれまでの建設技術者が業界内のみに拘束され、お互いに安心して取引ができる *疑似血縁関係、にあったと指摘。その上で、こうした構造が社会の変化で崩壊し、外部との仕事が増えたことなどから倫理規定が求められるようになったと話した。

最後に、国土交通省 港湾局 総務課 得津康弘調整官からは、港湾行政の近況に交えて、過去から最近までに発生した多くの不祥・不正事件の事例をあげて、事件の背景と求められる倫理観について話した。

(記事は北海道建設新聞から抜粋して掲載しました)



講演状況



講演講師



講演受講者

小樽港ケーソン製作電気クレーン 80余年の歴史に幕

鋼体に鮮やかな空色が施され、みなとのランドマーク にもなっていた小樽港斜路式ケーソン製作ヤードの電気 クレーン2基が、10月下旬から11月中旬に掛けて解体撤 去された。昭和10年の設置以来、みなとの拡張、近代化 に寄与して来た80余年の歴史に幕を閉じた。

本ヤードでのケーソンは、大正元年から斜路による進 水方式により製作が開始され、当時は蒸気クレーン 4基 が用いられていたが、技術の進展に伴い昭和10年に電気 式へ切替えられ、蒸気式時代のも含めて、小樽港をはじ め岩内港、古平漁港、石狩湾新港、遠くは留萌港などの ケーソン約800函が製作された。

今回撤去された電気クレーンは高さ23m、アーム長30

m、吊上げ能力2tの仕様で、製造から81年が経過し、 鉄骨の錆などの老朽化が進んでいた。また、ケーソンの 大型化に伴って本ヤードでの需要がなくなり、平成17年 の製作が最後となっていた。解体は、アーム部分まで足 場を組み立て、安全ネットにより囲い、機械室の撤去か ら慎重に作業が進められた。

斜路については、滑り台方式でケーソンを進水させた 世界初の施設であり、その独創的な技術と各港において 広く採用された評価により平成21年度に選奨土木遺産へ 認定され、また、全国的にも他に現存施設がないため、 今後も保存される。



電気クレーンの組立て(昭和10年9月)



電気クレーンの稼働状況(平成16年)



写真提供: 小樽開発建設部

機械室の撤去状況(平成28年10月)



電気クレーン撤去後の状況(平成28年11月)

小樽港フィールド・ラーニング (O.F.L)の開催

小樽開発建設部は12月9日(金)、同部庁舎で小樽港フィールド・ラーニングを開催した。開建職員、小樽市や余市町職員、民間業者など70名が参加。港湾工学の父と呼ばれる初代小樽港湾事務所長の廣井勇博士の技術者としての姿勢等を学んだ。

小樽開建では毎年、小樽港の築港開始時の計画・調査・設計・施工などを学ぶ勉強会を開催。平成24年から小樽港北防波堤の維持補修に生かしていこうと始まり、今回で6回目を迎える。

当日は、日本データーサービス㈱の関口信一郎顧問を 講師に招き、「連続講演にあたって~世界・日本・北海道 の動きと廣井勇博士。北海道の歴史と開拓」をテーマに 講演した。

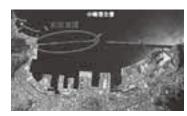
小樽開建の千葉不二夫次長は、小樽港の整備を進めて

いく上で、廣井博士の功績、築造の考えを考証していく ことが大事だと強調。「北防波堤は120年近く経った今で も頑として健在で、小樽港を守っている」と述べ、当時 の土木技術に学び技術力向上に役立てることが大事だと 呼びかけた。

講演では、関口顧問が廣井博士の略歴や、江戸時代から昭和20年までの北海道の開発の歴史についてパワーポイントを用いて解説した。

このほか、小樽港湾事務所の今宗紀所長が「小樽港モルタルブリケット及び試験データの取り扱いに関する基本的考え方」について説明し、その後、参加者で意見交換した。

(記事は北海道通信から抜粋して掲載しました)





北防波堤



熱心に講演に聞き入る参加者 写真提供:小樽開発建設部 H28.12.9撮影



講演する関口信一郎顧問 写真提供:小樽開発建設部 H28.12.9撮影

新千歳空港国際線ターミナル地域 再編事業の着工記念式

札幌開発建設部と東京航空局は11月13日、新千歳空港 で国際線ターミナル地域再編事業着工記念式を執り行っ た。国会議員や開発局職員など約70人が参加し、空港の 国際線需要増加を願うとともに、無事故・無災害での工 事完成を祈願した。

新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業は、国際線 に乗り入れる航空便の増加に対応するもので、国際線工 プロンの3バース拡張、南側誘導路新設、国際線ターミ ナルの機能向上などを実施し、空港の利便性向上や航空 機の慢性的な遅延緩和などを図ることが目的に行われる。 工事は本年度から事業化され、初弾の工事が本格化した

ことから着工記念式の開催となった。

記念式典では、はじめに、東京航空局の山口勝弘局長 が挨拶。来賓祝辞や祝電披露後に、千歳空港建設事業所 の中村誠所長が事業概要を説明。その中で、「2020年3 月の完成に向け、コスト、工程管理を行い、より早期の 効果実現と完成度の高い工事となることを目指す」と力 強い抱負を述べた。次に、地元選出の国会議員や関係者 の掛け声とともに鍬を入れ、工事完成までの安全を願っ

(記事は北海道通信から抜粋して掲載しました)



着工記念式の様子



鍬入れの様子



新千歳空港 国際線ターミナル地域再編事業 完成イメージ図

写真提供:北海道開発局 札幌開発建設部

「釧路港みなと見学会」の開催

釧路港施工業者で構成する「釧路港みなと見学会実行 委員会(10社)」は「小学生とその父母を対象に港湾工 事とはどのような事をしているか間近で見ていただき、 日常生活では触れることの出来ない体験を通して、親子 の思いでの一つとなり、港湾工事に対して好印象を持っ てもらうこと」を目的に9月17日(土)午前中、小学生 と父母を招いて港湾工事や港湾施設の見学会を開催した。 参加者は小学生23名、父母15名の38名で集合場所の釧

路港湾事務所をバスで出発、西港区の船着場から3隻の 見学船に乗船し西港区を一周、-14m岸壁工事現場、ア ンローダーやガントリークレーンなどの港湾施設を見学 した。下船後バスで移動し第3ふ頭東側の作業ヤードで 長さ41m径1.6mの鋼管杭を見学、杭の中を通り抜けて大 きさを実感したり、杭表面に思い思いの落書きをした。 後半は集合場所に戻り、絵と見学写真の記念カレンダー 作りをして見学会を終了した。



見学会記念撮影



鋼管杭に落書きする小学生



鋼管杭を通りぬける小学生



船内での説明を聞く小学生



参加小学生に渡す記念カレンダー

広域防災フロートの派遣訓練が 実施されました

広域防災フロート派遣協議会(会長・根本任宏室蘭開 建次長)は10月6日、広域防災フロートの派遣要請を想 定した訓練を実施した。訓練は協議会の構成団体(室蘭 開建、胆振総合振興局、室蘭建設業協会、日本埋立浚渫 協会道支部、室蘭労基署、道運輸局室蘭運輸支局、室蘭 海上保安部、室蘭港湾振興会、室蘭市消防本部)から30 人余りが参加し、大規模災害発生時に迅速かつ的確な対 応を行うため、一連の作業手順を確認するとともに、連 携強化を図った。

室蘭開建が所有する広域防災フロートは、大規模地震 や火山噴火等の大規模災害発生時に、国が被災地に迅速 に派遣し、住民避難、緊急物資輸送や臨時へリポート等、 災害復旧活動等の支援施設として利用される。平成23年 3月の東日本大震災の際には、被災地に緊急支援物資を 運んだあと、被災した地域の港に常駐し作業船の係留施

設として活用された。また、平常時は、直轄港湾工事の コスト縮減を図るため工事資材の台船等として活用して いる。

今回は、四国沖でマグニチュード9の地震が発生し、 最大26mの大津波を観測したものと想定。鹿児島県志布 志港への広域防災フロートの派遣を決め、①情報伝達② 情報共有③関連法令にかかる手続き確認等を重点事項と して訓練に臨んだ。

室蘭港西1号埠頭では、支援物資等の資機材を広域防 災フロート甲板上に搬入し、所定の場所への荷下ろし、 ロープで固定する等の支援物資等積込訓練を行った。そ のあと、室蘭開発建設部本部庁舎で机上訓練を実施した。 参加者は万一の派遣要請に備え、本番さながらの緊張感 で訓練を行い、連携強化を図った。

(記事は北海道通信から抜粋)





支援物資等の荷下ろし状況



机上訓練の状況

第6回苫小牧漁港ホッキまつりが開催されました

第6回苫小牧漁港ホッキまつりが10月16日、苫小牧西 港漁港区をメイン会場に開催された。会場では苫小牧産 ホッキ貝の格安販売のほか、各種ホッキ料理が提供され、 にぎわいを見せた。

水揚げ量日本一の苫小牧のホッキ貝をPRする恒例のイベント。主催者によると、市内外からの来場者は3万6000人を数えた。

会場では先着2000袋(1人1袋)限定で、新鮮なホッ

キ貝1袋7個入りを1000円で販売。コーナーには行列ができ、飛ぶように売れた。屋台ではバター焼き、あんかけ焼きそば、カレーなどホッキ貝を使ったグルメを提供。来場者は海の幸に舌鼓を打った。ステージでは吹奏楽の演奏やホッキ早むき競争、ホッキ音頭の踊りなどさまざまなプログラムを繰り広げ、まつりを盛り上げた。

(苫小牧民報より抜粋)



漁港区でのにぎわい状況



ステージとにぎわい状況



ホッキ貝等の販売状況

大型客船寄港

小樽港、今年度最後の豪華客船 コスタ・アトランチカ初寄港

今年度最後となる豪華クルーズ船のコスタ・アトランチ カ (85,619t) が、10月17日 (月) 小樽港に初寄港した。 同船は当初の寄港予定にはなかったもので、これによ り今年度のクルーズ船の寄港数は25隻となり、平成26年 の41隻に次いで2番目の寄港数となった。

午前7時に小樽港沖に船影を現し、予定通りの午前8 時に勝内ふ頭に着岸した。同船は中国天津からのチャー ター船で、韓国の釜山を経由して小樽港に入港した。乗 客約2,000名はほぼ中国人で、入国審査に時間を要し、 乗船客の下船は午前9時30分頃から始まった。

勝内ふ頭では、50台分の大型バス駐車場がいっぱいに なり、札幌・室蘭・旭川などのナンバーが並び、小樽市 産業港湾部港湾室職員は「これだけの数のバスが集まる のを初めて見た。チャイナパワーですね」と話していた。

また、大勢の中国人ツアーガイドが、下船してくる乗 船客をそれぞれのバスへ列を作って誘導していた。この 光景に、臨時観光案内所のおもてなしボランティアのメ ンバーは「これだけのツアーガイドが集まると壮観だ」 と話していた。今回、臨時観光案内所には小樽商科大学 の中国人留学生も助っ人で参加した。

乗船客のほとんどがバスツアーを利用し、出港時刻の 午後5時まで、小樽市内や遠くは京極町のふきだし公園 まで足を伸ばし、小樽・後志観光を楽しんだ。

おもてなしボランティアの一人は、これで今年度もク ルーズ船が終わって、なんだか寂しくなると話していた。 同船は次の寄港地である函館に向け出港した。

(記事は小樽ジャーナルから抜粋して掲載しました)







コスタ・アトランチカ着岸状況

写真提供:北海道開発局 小樽開発建設部 H28.10.17撮影

釧路港に今年度最後の豪華旅客船 フォーレンダム寄港

10月11日(火)釧路港旅客ターミナルに今年度最後の 大型クルーズ船「フォーレンダム」(6万1214トン・定 員1404人・オランタ船籍)が寄港した。クルーズ船で来 釧する外国旅行客が年々増加していることから安全に観 光してもらおうと、釧路署の署員が旅客船ターミナルで 事件事故の防止を呼び掛けた英語版のチラシを配布した。 今年度のクルーズ船寄港は14回と2014年の24回についで 多かった。

今年度釧路港に寄港したクルーズ船は、4月から10月の期間でダイヤモンド・プリンセス(11万5906トン)が6回、にっぽん丸(2万2472トン)が3回、フォーレンダム(6万1214トン)が2回、シルバーシャトー(2万8258トン)が2回、飛鳥II(5万142トン)が1回であった。



接岸したフォーレンダム



釧路港とフォーレンダム



出港前のフォーレンダム

Information

___ ◎事務局だより

北海道港湾空港建設協会

【常任理事会】常任理事会を平成28年11月14日 (月) 京王プラザホテル札幌で開催しました。

議題 1. 日港連運営員会等について

- 2. 北海道開発局港湾空港部長への要望事項(案)について
- 3. 平成29年度 日港連会長表彰候 補者について
- 4 その他

【広報委員会】会報誌第90号発刊に向けた編集 会議を平成28年10月28日(金)、北海道港湾空 港建設協会会議室で開催しました。

【技術委員会】技術委員会を10月28日(金)北 海道港湾空港建設協会会議室で開催しました。

議題 1. 平成28年度港湾空港部長に対す る要望事項について

- 2. 平成28年度工事報告会について
- 3. その他

日港連・港湾空港建設協会共催による北海道開

発局との要望・意見交換会を12月8日(木)ホテルポールスター札幌で開催しました。

港関係団体連絡会

【連絡会】港関係団体連絡会を平成28年4月26日(火) KKRホテル札幌で開催しました。

議題 1. 平成27年度収支決算及び平成28 年度収支予算(案)について

- 2. 役員の選任について
- 3. 要望項目の調査日程について
- 4. その他

港関係団体連絡会議を平成28年10月14日(金) 北海道港湾空港建設協会会議室で開催しました。 議題 1. 平成28年度要望事項について

【意見交換会】北海道開発局担当者との意見交換会を平成28年11月25日(金)北海道港湾空港建設協会会議室で開催しました。

議題 1. 懸案事項について意見交換

2. その他

港湾・空港・漁港事業に係わる要望・意見について北海道開発局と意見交換会を12月9日 (金)ホテルポールスター札幌で開催しました。

北海道港湾振興団体連合会

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が 平成28年10月20日(木)、東京都の砂防会館で 開催されました。

日本港湾空港建設協会連合会

【港湾局長意見交換会】 国土交通省港湾局長と日港連(北海道から宮崎会長が出席)の意見交換会が平成28年11月8日(火)に国土交通省港湾局会議室で行われました。

【日港連セミナー】

第91回 日港連セミナー(中堅技術者対象)が 平成28年6月14日(火)盛岡市で開 催されました。

第92回 日港連セミナー(中堅技術者対象)が 平成28年9月27日(火)高松市で開 催されました。

第93回 日港連セミナー (経営者対象) が平成 28年11月7日 (月) 東京都で開催さ れました。







「写真提供: 稚内開発建設部」

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.90

発行年月 平成29年1月

行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮﨑 英樹 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階) TEL(011)707-4731 FAX(011)707-4733 発

http://www.hokkaido-kkk.jp Email:hkkk@h4.dion.ne.jp

北海道港湾空港建設協会 広報委員会 編

編集責任者 大倉 正憲

刷 (株)須田製版 印